

「アーティストとアートを体験するセミナー 2023 春」を開催

学生支援センター 未来人材育成部門



東京工業大学は、理工系学生のcreativityを育むため、春と秋の年2回、「アーティストとアートを体験するセミナー」を開いています。2023年前期は5月24日にすずかけ台キャンパスにて対面で開催されました。セミナーは講師のマイヤー氏により、英語と日本語の併用で行われました。参加者20名のうち留学生が11名、日本人学生が9名で、多様な背景を持つ学生たちが集い交流する場となりました。

講師の紹介：ツゼ・マイヤー氏

アートセミナーは、東工大の元非常勤講師で画家・詩人のツゼ・マイヤー（Zuse Meyer）氏が講師として教えます。マイヤー氏はベルリン国立芸術大学出身で、現在はベルリンや東京で創作を行い、独創的なアートワークショップ、アートスクールを主催しています。



学生一人一人に丁寧なアドバイスを送るマイヤー氏



講義を聴く学生たち

セミナー当日は、テーマに沿った講義のあと実習がおこなわれ、最後に講師から個々の作品への講評という流れで進みました。



講義：デューラー、レンブラント、ゴッホ、ベックマンの肖像画

今回のセミナーのテーマは「人間の顔」（肖像画と自画像）でした。講義では、15~16世紀の画家デューラーから始め、17世紀の画家レンブラント、19世紀の画家ヴァン・ゴッホ、20世紀に活躍したベックマンなどの肖像画や自画像が紹介され、それぞれの時代の背景、画家のバックグラウンド、作品にみられる写実性、家族への愛情、その人の生きた証、作者の心情などが語られました。

また、作品とその人の内面は切り離せない、肖像画はセルフイーではなく、1枚として同じものは存在しない、そして、自画像は客観的なものではなく、全て主観的である、全ての人間は異なる、アートには同じ対象を描いても同じ作品はない、との主旨が伝えられました。

実習－ポートレート



一筆書きの課題について説明を受ける参加者

一筆描きで自画像を描く

まずはウォームアップとして一筆描きが行われました。小さいスケッチペーパーを使用し、自分の顔を鏡を見ながら一筆で描き続けることを練習しました。

「手を止めてしまうと迷いが出てしまいます。とにかく描き続けることが大事」というマイヤー氏。参加学生は新しい経験に向き合いました。

向かいの席に座る人をパステルで描く

次の課題では、大きい方のスケッチペーパーで、向かいに座る人をパステルで描きました。今度は一筆描きではなく、自分の感性を信じて自由に真剣に描きました。どの学生の作品も、その人の特徴を捉えた素晴らしい出来栄でした。



制作に熱中する学生たち

利き手ではない手でパステルを使って自画像を描く



自画像を描く学生

最後の課題は、大きい方のスケッチペーパーに、利き手ではない方の手を使って自画像を描くことでした。「利き手はいつも考えている。もう一方の手で、自分の感性に従って描いてみてください。」とマイヤー先生から温かい励ましを受け、それぞれユニークな作品を完成させました。



マイヤー氏の講評を聞く学生たち



色とりどりの紙が並ぶ



参加した学生の声 ※()内は原文

○セミナーに参加できてとてもうれしいです。とても楽しかったです。自分の創造性を開放するために最大限頑張りました。セミナーを開催していただき、ありがとうございました。日々の勉強日課から一息つくことができました。(I am very happy to join this seminar. I enjoyed a lot and tried my best to unleash my creativity. Thank you for organizing this seminar. It gives me a break from my monotonous study schedule.)

○自由に絵を描けて楽しかったです。

○セミナー自体も楽しく、ほかの受講者とコミュニケーションをとれたのがよかった。

○大変楽しかったです。次回も開催をお願いします。

○とても楽しかったです。セミナーに参加し、もっと絵を描く練習に興味を持ちました。(I really enjoyed and made me more interested to practice drawing more.)



マイヤー氏と参加者で記念撮影



次回のアートセミナーは、11月に大岡山で開催を予定しています。

お問い合わせ先
学生支援センター

Email internationalstudentsupport@jim.titech.ac.jp

Tel 03-5734-2760